

「第3次臼杵市総合計画(素案)」に対する意見募集(パブリックコメント)の意見等の概要及び臼杵市の考え方の公表について

令和7年4月11日(金)から令和7年5月12日(月)まで実施しました「第3次臼杵市総合計画(素案)」の市民意見の公募(パブリックコメント)について、市民の皆様から貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。お寄せいただきましたご意見について、考え方を取りまとめましたので公表いたします。

なお、提出いただきましたご意見は、整理・要約しています。

《募集及び閲覧期間》 令和7年4月11日(金)～5月12日(月)
 《閲覧場所》 臼杵市役所臼杵庁舎(場所:秘書・総合政策課)、臼杵市役所野津庁舎(場所:市民生活推進課)
 臼杵市社会基盤整備・災害支援センター(場所:建設課)、臼杵市中央公民館、野津中央公民館
 地域振興協議会拠点施設(18箇所)
 臼杵市ホームページ
 《市民意見公募結果》 9名(52件)

【意見の概要と臼杵市の考え方】

番号	項目	意見の概要	臼杵市の考え方
1	全体	◇取組方針と主な取組に対する◇施策の進捗を測るものさし(指標)の数が少なく、ものさしに入っていない取組も多いと感じる。	本計画においては、取組方針を網羅されるようなものさしを設定しています。また、それぞれの具体的な取組につきましては、個別計画に基づき事業を実施する中で、ものさしを設定し、評価をしてまいります。
2	全体	今回のようにパブリックコメントの募集をするのであれば、少し分量(内容量)を減らした方が読む方には読みやすいと感じた。重複する部分もあるような気がする。100ページ近い資料を読み上げるのは、一般市民には困難な作業と感じる。「市民が主役」の基本方針があるのであれば、改善を求めたい。そこで下記2点を検討いただきたい。 ①「ダイジェスト版」があると広く周知できるのではないかと。 ②市役所各課2枚程度の内容で発すると、組織の縦軸横軸の関係もより理解でき、市民目線の資料になったのではないかと。	①本市では「市民が主役のまちづくり」を基本方針として掲げております。そのため、市民の皆さまにご意見をいただく機会をより実効性のあるものとするためにも、今後、より簡潔で分かりやすい概要版を作成しパブリックコメント等を実施するよう努めてまいります。 ②現在では、行政の行う事業は、多様化・複雑化しており、1つの課のみで完結することが難しい状況となりつつあります。そのため、本計画においては、市の方針として、より市民の皆様に関わりやすいものとなるよう、分野ごとに分けて記載を行っております。一方で、総合計画の基本計画(施策)に紐づく個別の事務事業につきましては、課別ごとに作成をして臼杵市HPにて公表しておりますので、そちらをご覧ください。
3	P13 第4章 人口及び財政の状況 2.財政状況	歳入のうち、地方交付税を含まない市税等の自主財源の比率がわかる資料の色分け(表現)があると、臼杵市の人口減少に伴う緊迫した財政状況が具現化されると感じた。	本市の財政状況については、今後の推計などよりわかりやすい内容となるよう、いただいたご意見を踏まえ、自主財源の割合等がわかる資料へ修正いたします。
4	P17 第2章 まちづくりの目標 6	「情報の発信強化→市民満足度が向上」とあるが、40%を超える高齢化率の高い臼杵市で、どのような形での情報発信が有効なのかは検討していただきたい。DXに頼るものもわかるが、携帯電話を持たない高齢者やインターネットさえ見られない高齢者がいるもの現実である。	デジタル手段のみに依拠した情報発信では、デジタル弱者を含むすべての市民に必要な情報を十分に届けることは困難であると考えられるため、デジタルとアナログを組み合わせ「多様で効率的・効果的な情報発信」が重要であると認識しています。市民が求める情報が気軽に手に入れることができるよう、デジタル技術の活用のみならず、市民が求める媒体で効果的・効率的に情報発信を行うよう努め、「誰一人取り残さない情報発信体制」の構築を進めてまいります。
5	P20 第2章 臼杵市のまちづくりにおける重要な取組(重点プロジェクト)	「well-being」指標、主観的幸福感、生活満足度などの同義の語句が散見され、わかりにくい文章と感じる。	いただいたご意見を踏まえ、第2章臼杵市のまちづくりにおける重要な取組(重点プロジェクト)に記載の「ウェルビーイング」については、わかりやすい内容となるよう修正いたします。
6	P20 第2章 重点プロジェクト	指標に関するアンケートを集計することを行っていても、その結果はあまり見ていないような気がする。そもそもアンケート結果は、市の施策の進捗管理や改善にはつながらないと考える。	本市では、2002(平成14)年度から、「臼杵市よりよいまちづくりアンケート」と題した市民意識調査(市民アンケート)を実施しています。この調査結果は、職員説明会での共有のほか、市の施策評価の検証や外部有識者で構成される臼杵市行財政活性化推進委員会での議論に活用されています。今後も市民アンケートや外部有識者による評価を踏まえ、市の施策の進捗管理と改善を継続して行ってまいります。
7	P21 第3章 基本計画(基本計画の見方)	「SDGs」が唐突に書かれているが、関連する説明はあるか。	SDGs(持続可能な開発目標)は、2015(平成27)年に国連持続可能な開発サミットで採択された、2030(令和12)年までに達成をめざす国際社会共通の目標です。現在では、企業や個人もSDGsへの取組を意識するようになり、一般化が進んでいると認識しています。そのため世界共通の目標であるSDGsの理念を、さまざまな施策を通じて市民の方々へ広く啓発に努めることも自治体の役割として取り組んでいくため、関連する基本計画(施策)に紐づくSDGsのマークを掲載しています。詳細な説明は、資料編(本計画の最終項目)に掲載予定です。

番号	項目	意見の概要	臼杵市の考え方
8	P23 (1)安心して産み育てるための子育て環境の充実	「誰もが妊娠・出産・育児に希望をもち」とあるが、とても違和感があり、子どもを産む選択を全員がしなければいけないと勘違いしてしまう可能性がある。例えば、「子どもを迎えたいと望む誰もが妊娠・出産・育児に希望をもち」など追記してみてはどうか。	いただいたご意見を踏まえ、5年後のめざす姿を「 子どもを迎えたいと望む 誰もが妊娠・出産・育児に希望をもち」へ修正いたします。
9	P24 (1)安心して産み育てるための子育て環境の充実	◇取組方針と主な取組 ①地域における子育て支援環境の整備 1番目 「認可保育所・認定こども園等における、幼児教育・保育環境の充実や教育・保育の質と魅力の向上に努めます。」とあるが、前ページの現状と課題に書いてある内容と同じであり、具体的に何をやるのかが見えないため、もう少し詳細について検討いただきたい。(臼杵市ならではの質と魅力の向上方法を記載すると良いと思う。)	いただいたご意見を踏まえ、「認可保育所・認定こども園等に関する人材の確保やスキルアップに努めるとともに、 子どもの「食」(食育)への支援を行います。また、幼小連携による幼児教育・保育と小学校教育のなめらかな接続に努めます。 」へ修正いたします。
10	P24 (1)安心して産み育てるための子育て環境の充実	◇取組方針と主な取組 ①地域における子育て支援環境の整備 6番目 「小中学校の給食にほんまもん農産物等の地元農産物を優先使用するなど、」とあるが、現在市内のこども園も積極的にほんまもん農産物を使用しているため、こども園も含めた内容にしてはどうか。 また、この文脈で「より安全で」と記載すると、ほんまもん農産物＝安全、地元以外のその他野菜≠安全ではない、と思われてしまう可能性があるため、「安心で充実」ではなく「地域の素材を積極的に活用して充実した」など、検討の余地があるかと思う。	ご指摘のとおり、認可保育所・認定こども園等でも食育の取組を行っているため、9番のご指摘での修正のなかで、食育に関する内容を掲載します。 また、「より安全で」と記載すると、ほんまもん農産物以外の農産物が安全ではないとの誤解を与えてしまう可能性があるため、ご指摘の内容を踏まえ、「小中学校の給食にほんまもん農産物等の地元農産物を優先使用するなど、 地産地消の推進と併せて充実した学校給食の提供に取り組むとともに、食育の推進を図ります。 」へ修正いたします。
11	P24 (1)安心して産み育てるための子育て環境の充実	◇施策の進捗を測るものさし(指標) 2番目 ちあほーとでの子育て件数の目標値だが、全体の計画考えると相談件数が減るのが理想と感じる。単なる相談件数が増えると明記してしまうと、それだけ不安なことや悩みが増えるということにも捉えられらると思う。	ご指摘のとおり、計画に基づき取組を進めることで相談件数が減少することが行政が理想とする姿です。しかしながら、支援が必要にも関わらず、依然として、相談や支援につなげていないケースを確認しています。このような方々に対し、適切な支援が届けられるよう、施策の進捗を測るものさしでは相談件数の増加を目標としています。引き続き、適切な支援が届けられるよう、広報・周知を図ってまいります。
12	P25 (2)生涯を通じた健康な生活習慣の推進	◇現状と課題に様々な内容があるが、特に肥満傾向にある小学5年生や高血糖の方が多いことに関して、何か原因や理由があるのかと思う。その分析をしないまま、◇取組方針と主な取組にある内容を実施しても効果は薄いのではないかと、より詳しい現状の分析を行い、臼杵の現状にあった指導や予防を実施することを取組に追加してはどうか。	健康課題の解決には生活習慣や食習慣等の現状把握や課題分析が大切であると認識しており、現在でも、健診時の問診や保健指導の結果等から課題の分析等に取り組んでいます。ついては、いただいたご意見を踏まえ、◇取組方針と主な取組の基本的な生活習慣や運動習慣の定着促進へ「 訪問や保健指導で得た生活習慣の実態や、各種統計調査等を活用した医療費分析や健診結果の分析を通して健康課題を抽出し、課題に応じた対策を検討・実施していきます。 」を追記いたします。
13	P25-26 (2)生涯を通じた健康な生活習慣の推進	生涯を通じた「健康促進」には、「適切な施設の設置」が必要と考える。パークゴルフ場の建設は利用者も多く、とても有効と感じる。体力促進のため、その他に遊歩道、スポーツ施設、トレーニングジム、公園などの設置を市民は期待していると感じる。	市民の健康促進は、重要な課題の一つです。臼杵市パークゴルフ場が多くの方々に利用され、好評を得ていることは大変嬉しく思います。 いただいたご意見のとおり、生涯を通じた健康づくりには適切な施設の設置が重要と思われる。現在、公園内の主な遊歩道や歩道の幅員が十分に確保できる市道などには照明を設置し、朝タも含めたウォーキングやジョギングなどが行えるよう環境整備を行っております。今後も、市民のニーズを丁寧に把握し、施設整備等を行い、健康で活力ある地域づくりに取り組んでまいります。
14	P25-26 (2)生涯を通じた健康な生活習慣の推進	「運動やスポーツ」が子どもたちから離れた所に存在している気がする。拠点型部活動や地域クラブの方向性もあるが、子どもたちの運動習慣の定着は大切と考える。	いただいたご意見のとおり、子どもたちの運動習慣の定着は大切であると認識しています。今後も、◇取組方針と主な取組のとおり、健康、体力づくり推進のため、運動習慣の大切さについての理解促進に向けた啓発を行い、今後も様々な取組を通して、子どもたちが楽しみながら運動を続けられる環境を整えていきたいと考えています。
15	P29 (4)高齢者がいきいきと安心して暮らすための支援	「亀城学園・亀城大学」では530名ほどの高齢者が学び活動しており、退職後リターンした高齢者の交流の場にもなっている。生涯教育の視点から、地域の「老人クラブ」についての記載を検討いただきたい。	いただいたご意見の「老人クラブ」につきましては、◇取組方針と主な取組①地域活動、社会活動の参加促進と、生きがいづくりなどの活動の場の支援に内容を包括しています。老人クラブをはじめとした高齢者の活動の場の取組については、臼杵市高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画に基づき実施しております。引き続き、高齢者が健康で生きがいを持って生活できるまちづくりを進めてまいります。
16	P38 (7)人がつながる地域コミュニティの充実	下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】シェアリングエコノミーのポータル構築 地域コミュニティを充実させるため、シェアリングエコノミーのポータルを導入する。市民が資源を共有し、助け合える仕組みを整える。初期費用は発生するが、地域における市民主体のコミュニティ形成に大きく寄与する。行政と事業者・投資家との協働を図り、安全性や利用ルールを明確にすることで信頼性を高める。 【具体案】 ・有形資産の共有：車、工具、空き部屋、空き施設、空き駐車場などを共有する仕組みを構築する。 ・無形資産やサービスの提供：家事代行、趣味教室、子育て支援などを簡単に利用できる仕組みを整備する。 ・災害時の物資やスペースの共有：食品、医療用品、避難場所などを共有する。 ・地域イベント情報の共有：地域の民間イベント情報をポータルで集約し、誰もが簡単にアクセスできる形にする。 ・クラウドファンディングの活用：地域プロジェクトを市民が支援できる仕組みを導入する。	個人が所有するモノやスキル、場所などをインターネットなどのプラットフォームを通じて、他の人々と共有することで成り立つ経済活動をさすシェアリングエコノミーのポータルサイトを構築することは、効果的な取組であると考えられます。 ご提案いただいた具体策につきましては、市の最上位計画である「総合計画」の内容を踏まえた、個別事業を検討する中で、参考とさせていただきます。

番号	項目	意見の概要	臼杵市の考え方
17	P40 (8)選ばれ住み続けられる「うすき暮らし」の推進	下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】空き家活用による地域活性化 空き家を住居としてだけでなく、多様な用途で活用することにより地域活性化を図る。放置された空き家の登録を促進するとともに、事業者や投資家を誘致し、空き家を地域資源として積極的に活用する。 【具体案】 ・観光民泊の拡充:空き家を改装し、既存の不動産会社の管理下でAirbnbなどの民泊施設として活用する。木造の伝統的な家は外国人観光客に人気がある。 ・地域カフェの設立:地域住民が集まるカフェとして活用するほか、コワーキングスペースや市民向けワークショップの拠点として整備する。 ・農泊拠点の整備:空き家の庭や敷地を臼杵の有機農業体験ができる小さな農園として活用し、宿泊と組み合わせて提供する。	人口減少や少子高齢化、相続問題等により、市内の空き家は増加傾向にあります。そのような中、空き家を住居としてだけでなく、ご提案いただいた多様な用途で活用することは、大変効果的・効率的であると考えられます。ご提案いただいた具体策につきましては、市の最上位計画である「総合計画」の内容を踏まえた、個別事業を検討する中で、参考とさせていただきます。
18	P44 (9)魅力あるまちづくり基盤の計画的推進	下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】臼杵川周辺の観光資源の開発 多くの都市では川を中心に経済・歴史・文化が形成されており、川は観光資源としても重要な役割を果たしている。臼杵川の整備を通じて地域の魅力を向上させ、観光資源として最大限活用する。 【具体案】 ・市民憩い場の整備:(交通量が少ない側に)サイクリング、ジョギング、散策、ピクニックを楽しめる場所として、川沿いを整備する。 ・観光地を繋ぐサイクリングコースの開発:臼杵城下町、国宝臼杵石仏、白馬溪などの観光地を結ぶコースを設置し、健康志向の観光客向けにPRする。 ・屋台やフードフェスティバルの開催:臼杵の食材や特産物を楽しめる屋台やイベントを川沿いで実施し、地域の食文化を発信する。 ・芸術・音楽イベントの開催:地元や国内外の芸術家や音楽家を集めたイベントを開催し、文化的価値を高める。 ・川巡り体験の提供:小型ボートやカヌーを活用し、臼杵川の自然や歴史を感じられる体験型プランを展開する。	臼杵川周辺の観光資源の開発における、屋台やフードフェスティバルの開催、芸術、音楽イベントの開催、川巡り体験の提供などのご意見・ご提案につきましては、本市の観光振興に大変有効なものと考えます。実現に向けては、予算や安全面、環境への配慮など様々な課題がありますが、施策(19)観光資源の魅力向上と持続可能な観光の実現の取組方針と主な取組の①観光資源戦略「『臼杵らしい』文化・自然・歴史・食コンテンツと紐づけた体験メニューの開発ならびに特定の季節やイベント時における“今しかできない・こしかできない”体験・消費機会を創出」などの具体的取組を検討する中で、参考とさせていただきます。
19	P44 (9)魅力あるまちづくり基盤の計画的推進	◇取組方針と主な取組 ④港湾の整備 臼杵港新ふ頭の整備は新しい臼杵市のきっかけになってほしい。四国に渡るフェリーには宮崎・鹿児島県のトラックが多くあり、いずれも関西方面への航路はあるが、臼杵から四国が多い。交流の起点にもなり得る。さらに、人事交流のある愛媛県との関係強化や観光交流のイベントを期待しています。	本市と愛媛県八幡浜市は、フェリー航路を契機とした取組として、人事交流やお互いのイベントへの出店、観光PRをするなどの交流を行っています。そのような中、九州と四国をつなぐ重要な九州の東の玄関口である新たな臼杵港新ふ頭の整備は、数十年に一度の人と物の交流拡大の大きなチャンスであり、これを契機に地域間の交流イベントの拡大や特産品の相互紹介を通じて、更なる交流の促進が期待できます。つきましては、施策(19)観光資源の魅力向上と持続可能な観光の実現の取組方針と主な取組の②情報発信・誘客促進戦略「別府市、由布市等、県内他地域や愛媛県等他県との連携を通じた広域周遊観光を促進します。」などの取組を展開する中で、より効果的な観光振興を図ってまいります。
20	P46 (10)計画的な道路整備及び適正な維持管理	◇施策の進捗を測るものさし(指標)にある橋梁・トンネルの点検について、健全性Ⅰ及びⅡを増やすことにより、「健全性Ⅲ・Ⅳを減らす取組」の方に緊急性を感じている。危険性の高い橋梁は多く確認できる。	本市では、健全度「Ⅰ」「Ⅱ」の施設を増やすことで、結果的に「Ⅲ」「Ⅳ」の割合を減らすことをめざしております。現段階で本市には、直ちに通行に支障を及ぼす「Ⅳ」判定(緊急措置段階)の施設はありませんので、健全度「Ⅰ」「Ⅱ」の施設を増やす表現としております。修繕の措置が必要な施設については「臼杵市橋梁長寿命化計画」や「臼杵市トンネル長寿命化計画」に基づいて順次、計画的に対応していきます。今後も定期的な点検により施設を適切に管理するよう努めて参ります。
21	P47 (11)安全な水の提供と上下水道システムの維持・強化	タイトルの中に「安全な水の提供」とあるが、それ以下の内容に水質検査の実施と市民への情報公開について、何も書かれていないのが気になる。昨今の社会情勢を考えると、臼杵市の水が本当に安全と言えるのかどうなのか、しっかりと市民に伝える必要があるかと思う。	水質検査計画につきましては、水道事業所において閲覧可能としており、今後も、広報に努めてまいりたいと思います。また、水質検査の結果については、インターネット等に公開していませんでしたので、いただいたご意見を踏まえ、今年度より、有機フッ素化合物(PFOS・PFOA)の情報提供を含めた水質検査結果を臼杵市公式HP等で公表いたします。
22	P47 (11)安全な水の提供と上下水道システムの維持・強化	◇現状と課題【下水道】5番目 単独浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進すると同時に、転換が難しい場合も多いと思うため、水質保全のための適切な水の使い方、排水の知識を伝える必要があると思う。	水質保全等に向けた取組については、国や大分県など関係機関と連携し、広報してまいります。なお、合併浄化槽への転換方法等で問題点などございましたら、上下水道課へご相談ください。
23	P53 (13)公共交通の利便性の向上	臼杵津久見警察署で確認できると思うが、高齢者の自動車免許保持率はどれくらいか。「シームレスな公共交通ネットワーク」が機能しなければ、高齢者の免許返納には無理が生じる。	自動車運転免許の管轄は、大分県公安委員会のため、本市では、高齢者の自動車運転免許保有率を把握しておりませんが、自動車運転免許証の自主返納に伴う本市の支援制度(タクシーやバスなどの乗車券合計1万円分交付)は毎年200名前後利用している状況です。引き続き、地域の暮らしを支えていくため、様々な可能性を排除することなく、デジタル技術の活用や地域の多様な輸送資源を最大限活用する取組を進め、持続可能な地域公共交通の構築に努めてまいります。

番号	項目	意見の概要	臼杵市の考え方
24	P53 (13)公共交通の利便性の向上	「市民協働による地域内交通」として、海辺地区の取組(あまバスマイルパス・あまべたースケ号)は評価されるべき事業。臼杵市の支援があればさらに広がる取組であり、「住みやすいまち」につながると考える。	いただいたご意見にあります住民主体の地域内交通の取組は、地域の実情に応じた柔軟な移動手段の確保として、大変意義のあるものと認識しております。本計画において、個別の事業には踏み込んでおりませんが、いただいたご意見は、今後の具体的な施策の検討にあたり参考とさせていただきます。今後も、効果的で持続可能な移動手段確保のため、地域住民の方々と協議しながら地域のニーズに沿った公共交通網の形成に取り組んでまいります。
25	P58 (15)消防・救急体制の充実	消防組織の広域化が全国で進んでいるが、臼津広域連合として、津久見市と広域消防を行う考えはあるか。	大分県内の消防連携・協体制の強化として、2024(令和6)年10月1日より、119番受信から出動指令までの消防指令業務が一本化され、「おおいた消防指令センター(大分市荷揚町)」での共同運用が開始されていますので、いただいたご意見の臼津広域連合としての消防業務の広域化につきましては、現時点で具体的な計画はありません。
26	P61 (16)食文化創造都市臼杵の確立	◇現状と課題 3番目 「市内の小中学校や高等学校と連携した」とあるが、こども園との連携も必要ではないか。	本市では、食文化に対するシビックプライド醸成に向けた取組として、教育・保育機関の教員や担当者に対して、本市の食文化を体験理解する機会の提供や、こどもや保護者が食文化を学べる教育の推進を行っています。しかしながら、ご指摘のとおり前後の文脈からは、先に述べた趣旨が伝わりにくい可能性があるため、◇現状と課題に幼児を対象とした教育機関、保育機関を含んだ表現「市内の小中学校、高等学校等」及び「【郷土愛を育む】」を追記いたします。引き続き、市内のこども園や小中学校、高等学校等と連携し、食文化に対するシビックプライドの醸成に取り組んでまいります。
27	P62 (16)食文化創造都市臼杵の確立	下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】臼杵食文化のブランド化と国内外へのPR 臼杵市のUNESCO食文化創造都市は、地域独自の強みを持つ貴重な差別化要素である。この魅力を活かして臼杵の食文化をブランド化し、大手旅行会社と協力し、国内外へのPRを推進する。これにより観光産業の成長を図る。 【具体案】 ・臼杵食文化体験ツアー:地元食材の調達から調理体験、地酒とのペアリング、農家との座談会などを盛り込んだツアーを実施する。 ・臼杵食文化視察ツアー:土作りセンター、有機農家、魚の養殖場(フグ捌きや活け締めデモ)、味噌・醤油工場、酒蔵などを巡る視察ツアーを実施する。 ・食フェスティバルの開催(継続拡大):「臼杵食文化祭」を定期的に開催し、国内外の料理人が臼杵の食材を活かした料理を提供する場を作る。食と音楽、アートを融合させ、地域の魅力を幅広く発信する。 ・デジタルプロモーション:ソーシャルメディアを活用し、「臼杵の美食」をテーマにしたキャンペーンを展開する。 ・海外市場でのブランド展開:シンガポールや台湾、香港など、日本食が高く評価されている地域をターゲットに、フードフェアやビジネスマッチングイベントに積極参加し、「臼杵地もの」のブランドをアピールする。	本市では、2021(令和3)年にユネスコ創造都市ネットワーク(食文化分野)へ加盟しました。このことは、本市の強みとなる要素であり、これを契機として、これまで以上に食を通じた持続可能なまちづくりに力を入れ、市民のシビックプライドの醸成はもちろん、市内外での食文化のPR活動に取り組んでいます。ツアー造成や海外のイベントでの周知など、ご提案いただいた具体案につきましては、(一社)臼杵市観光協会や各種団体等と連携を視野に入れ、最上位計画である「総合計画」の内容を踏まえた、個別計画「臼杵食文化創造都市推進プラン」を進める中で、参考とさせていただきます。
28	P63 (17)持続可能な農林水産業の確立	◇現状と課題 3番目 「また、有機農産物の安定的な生産と供給、販売価格の適正化に向けて、少量多品目栽培から中量特定品目栽培への経営転換を検討する必要があります。」とあるが、この記載だと少量多品目栽培は農家として成り立たないと思われるかと思う。有機農産物の魅力は少量多品目にもあると思うため、農業の多様性を失わない内容に検討いただきたい。	本内容は、少量多品目栽培と中量特定品目栽培のどちらかのみでの経営を絶対視するものではありませんが、いただいたご意見のとおり「少量多品目栽培は農家として成り立たない」と読み取れる可能性もあります。いただいたご意見を参考に、「少量多品目栽培から中量特定品目栽培への経営転換等の生産規模に応じた検討」を必要とあります。へ一部修正いたします。
29	P63-64 (17)持続可能な農林水産業の確立	昨年から米の価格高騰により、米生産への需要が高まっており、地域計画策定時と異なり、担い手の確保と農地の集約化と併せ、遊休農地や耕作放棄地を水田として復活利用することが、一層求められる状況にある。そのため、◇取組方針と主な取組①持続可能な農林業の振興の4番目「地域計画に基づき担い手の確保」の後に、「遊休農地や耕作放棄地の拡大防止とその解消」を追記いただきたい。 また、これに伴い、◇現状と課題の4番目「遊休農地や耕作放棄地が拡大しており、」を「地域計画～」の前へ追記いただきたい。 また、ここ数年、米作りにかかる燃料や肥料代等は高くなってはいるが、昨年からの米の価格高騰により、米農家は収益があがるようになった。畑が水田より収益率が高いとは言い難い状況となっているため、◇現状と課題の3番目「水田畑地化による」を削除いただきたい。	ご認識のとおり、昨年からの米の価格は上昇傾向にあります。生産者においては燃料費や肥料代の高騰により、大きな収益にはつながっていないのが実情です。今後も米の価格については、状況を見守る必要があると認識しております。また、耕作放棄地や遊休農地については、年々増加傾向にあり、担い手による耕作放棄地等の解消および優良農地の維持対策が求められています。そのため、実情及びいただいたご意見を踏まえ、「農地の有効利用の推進」へ修正いたします。引き続き、優良農地の確保と有効利用の取組を推進してまいります。

番号	項目	意見の概要	臼杵市の考え方
30	P63-65 (17)持続可能な農林水産業の確立	<p>臼杵市は長年、「うすき夢堆肥」の製造と普及を通じた土づくりから始める持続可能な農業を推進し、「健全な農産物は、健全な土から」という理念のもと、化学肥料に依存しない環境配慮型の農業を市の特色ある施策として位置づけてきた。この特色ある取組をさらに発展させる方向性を一層明確に打ち出していきたい。そのために、下記5つについて、検討いただきたい。</p> <p>(1)「環境に配慮した農林水産業の振興」と「安全・安心な食料の供給」における「うすき夢堆肥」による土づくりと有機農業の推進について、さらに強化する方向性を明確に示していただきたい。具体的には、重点プロジェクト2「臼杵の地域資源の魅力発信」の中でも、有機農業・環境配慮型農業を臼杵市の特色ある農業として位置づけることを検討いただきたい。</p> <p>(2)「ものさし」として「ほんまもん農産物及び有機栽培の圃場面積(ha/累計)」が設定されているが、これに加えて「うすき夢堆肥の生産量および使用量(t/年)」も指標として追加することを検討いただきたい。</p> <p>(3)臼杵市独自の「ほんまもん農産物」認証制度については、制度開始から10年以上が経過し、認証農家の栽培技術も向上していることから、この機会に全国的・国際的に通用する有機JAS認証への発展的移行を検討していただきたい。</p> <p>(4)施策(16)「食文化創造都市臼杵の確立」と施策(17)「持続可能な農林水産業の確立」の連携について、より明確に記述していただきたい。</p> <p>(5)施策(24)「環境保全・気候変動対策の推進」において、有機農業そのものが環境保全や気候変動対策に大きく寄与する点を明確に位置づけていただきたい。施策(24)の取組方針「①多様で健全な森林への誘導」の中で「間伐材を土づくりセンターの原料として積極的に活用します」とあるが、間伐材の利用については、まずは建材など高付加価値での利用を優先し、建材等に適さない部分を土づくりセンターの原料として活用するというカスケード利用の考え方を明確にいただきたい。</p>	<p>ご認識のとおり、本市では「うすき夢堆肥」による「土づくり」に重点を置いた施策の展開を図り、環境に配慮した循環型農業を推進しています。いただいた5つの具体的な提案につきまして、下記のとおり回答いたします。</p> <p>(1)「うすき夢堆肥」による土づくりと有機農業の推進について、さらに強化する方向性は、「第2次ほんまもんの里みんなで作る臼杵市食と農業基本計画」第3章実施計画の中で記載しています。「うすき夢堆肥」の具体的な内容は、上記基本計画を元に実施いたします。なお、総合計画の重点プロジェクト2「臼杵の地域資源の魅力発信」についても、上記計画実施後に効果的な魅力発信を検討してまいります。</p> <p>(2)「ほんまもん農産物」や有機栽培の圃場面積(ha/累計)については、環境に配慮した農業を包括的に把握する指標として位置づけております。ご提案のありました夢堆肥の使用量については把握が困難な状況です。また、夢堆肥の生産量については個別計画である「第2次ほんまもんの里みんなで作る臼杵市食と農業基本計画」で設定しております。</p> <p>(3)全国的・国際的に通用する有機JAS認証への発展的移行の検討につきましては、個別計画である「第2次ほんまもんの里みんなで作る臼杵市食と農業基本計画」第3章実施計画の「2. 有機農業の振興」で記載しています。有機JAS認証取得に対する支援の具体的な内容は、上記基本計画を元に実施いたします。</p> <p>(4)いただいたご意見を参考に、5年後のめざす姿にユネスコ創造都市ネットワークとの連携を次のとおり追記いたします。「農業においては、新規就農者の確保・育成に向けた研修制度の充実、技術の向上を通じて農業所得の増加を図るとともに、農地集約化の推進や環境に配慮した農業を振興し、安全・安心な農産物が供給されており、ユネスコ創造都市ネットワークの活動を通じて世界に発信しています。」</p> <p>(5)有機農業そのものが環境保全や気候変動対策に大きく寄与する点及び間伐材を土づくりセンターの原料として積極的に活用する内容につきましては、「第2次ほんまもんの里みんなで作る臼杵市食と農業基本計画」第3章実施計画「4環境に配慮した農業の推進」の中で記載しています。間伐材などの整備で搬出された未利用材などは、土づくりセンターの原材料として有効活用し、また、カスケードセンターにおいても山林から搬出した材の中間土場や土づくりセンターの置き場としても活用できるようにしていきたいと考えています。そのため、いただいたご意見を踏まえ、「間伐等によって出た未利用材を土づくりセンターの原料として積極的に活用します。」へ一部追記いたします。</p>
31	P64 (17)持続可能な農林水産業の確立	<p>◇取組方針と主な取組 ②活力ある農林水産業の振興 2番目 「漁業における担い手を確保するため、漁業担い手交付金の周知・啓発に取り組みます。」とあるが、漁業の担い手確保はかなり緊急度の高い課題と思う。取組として、担い手交付金の周知・啓発のみが書かれているのがとても気になる。ほかにはできることは無いか。農業のファーマーズスクールのような具体的取組が必要かと思う。</p>	<p>漁業の担い手確保は喫緊の課題と認識しており、交付金の周知・啓発に加え、より具体的な取組の必要性を感じております。しかしながら、本市では「指導者となる漁家が少ない」という現状があり、新たに漁業に従事したいという方に対し、十分な支援が行えないという課題も抱えています。これらの現状を踏まえ、今後、大分県をはじめとする関係機関と連携し、効果のある具体的取組を検討してまいります。</p>
32	P64 (17)持続可能な農林水産業の確立	<p>◇取組方針と主な取組 ②活力ある農林水産業の振興 4番目 「女性就農者確保」とあるが、なぜ女性限定なのか。女性が就農したら活力があるという意味であれば、とても違和感がある。課題の解決のためには「若手就農者確保」がより現実味があると思う。</p>	<p>女性の活躍推進をはじめとする「性別にかかわらず多様な担い手が活躍できる環境の整備」は、さまざまな視点や能力をその分野に取り入れることができ、生産性が高く持続可能な社会の実現につながります。女性就農者への支援についても同様に、女性の農業参画を後押しする目的で記載しておりますが、ご指摘のとおり前後の文脈からは、先に述べた趣旨が伝わりにくい可能性があるため、「就農者確保のための多様な支援や担い手同士の交流の促進に取り組みます。」へ修正いたします。</p>
33	P67 (18)商工業の経営基盤強化	<p>ブランド認証の「ほんまもん農産物」は知名度も高く効果的な戦略であるが、「うすきの地もの」は周知されているか。</p>	<p>本市では「うすきの地もの」の認知度向上に向けてさまざまな取組を進めています。今後も、さらなる認知度向上に向け、臼杵市内外で「うすきの地もの」認証品を手にとる機会が増えるよう、市内小売店での販売拡大や情報発信に取り組んでまいります。</p>
34	P68 (18)商工業の経営基盤強化	<p>一般的にITリテラシーや自己管理能力が高く、趣味を持ち、(通勤せずに)ずっとそのまちにいます)住んでる場所に愛着を持ちやすいと言われるリモートワーク従事者を優遇・歓迎する施策(モニター等の周辺機器の購入補助金、インターネット接続工事の補助金、市内飲食店のクーポンなど)をご検討いただきたい。 ※リモートワーク従事者の誘致は、企業誘致と比較してコストとリスクが低い。</p>	<p>人口減少対策及び雇用や働く場に対する支援は喫緊の課題であり、様々な角度から検討を重ねているところで。ご提案いただいたリモートワーク従事者を優遇・歓迎する施策は、魅力的な施策の一つと考えられます。ご提案いただいた事業は、市の最上位計画である「総合計画」の内容を踏まえ、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。</p>
35	P68 (18)商工業の経営基盤強化	<p>下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】事業承継の計画的な推進 事業承継プラットフォームはあるものの、まだ十分に活用されていないように見受けられる。事業の自然淘汰は避けられないが、臼杵の食文化を支える事業は計画的な事業承継の推進が求められる。また、若者の創業支援の視点からも事業承継への取組を強化する。 【具体案】 ・創業者の思いをストーリー化：料亭やレストランの創業者の思い、歴史や伝統のレシピを記録・公開し、事業承継の意味や重要性を周知する。 ・事業承継フェアの開催：移住フェア同様、定期的に事業承継フェアを開催し、移住者や創業希望者の参加を促す。 ・フェアとPR活動の連携：臼杵市独自の美食文化をテーマにしたフェアと事業承継を組み合わせてPRし、関心を引きつける。 ・コーディネーターの配置：事業承継に関する知見と経験を持つ専門コーディネーターを配置し、個別相談や計画策定を支援する。 ・若者向けトレーニングプログラム：資金調達や経営ノウハウ、関連技術を学べるトレーニングを提供し、メンターを設置し、受継期間をサポートする仕組みを作る。</p>	<p>本市では、地域で育まれてきた事業を次世代に繋いでいくため、事業を譲りたい事業者(売り手)と譲り受けたい事業者(買い手)をつなぐ事業承継サービスである事業承継プラットフォームを活用し、後継者問題にお悩みの方々、事業をスタートされたいの方々に対する支援を実施しています。これにより、「借生まれながらもいつの間にか廃業」にするのではなく、事業者目線で事業承継支援に関与し、次世代へのバトンを繋いでいきたいと考えています。しかしながら、登録件数やマッチング数は依然として低い状況となっており、事業承継に対する広報・周知の徹底が必要と認識しております。ご提案いただいた具体策につきましては、市の最上位計画である「総合計画」の内容を踏まえ、個別事業を検討する中で、参考とさせていただきます。</p>

番号	項目	意見の概要	臼杵市の考え方
36	P68 (18)商工業の経営基盤強化	下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】雇用の確保、創業支援の充実の一部として、若者の創業支援 臼杵市で若者が創業しやすい環境を整備するための施策を更に強化する。市としてスタートアップ支援の方向性を明確にし、人材流入を促進し、地域活性化を図る。 【具体案】 ・スタートアップ支援都市の宣言：市としてスタートアップ支援都市であることを公式に宣言する。 ・インターンシップ制度の活用：県内の大学と連携し、社会に進出する前に臼杵で働く経験を提供し、大学卒業後の臼杵市への移住のきっかけを作る。 ・起業家育成プログラムとの連携：大学の起業家育成プログラムやベンチャーキャピタルとの連携、補助金制度の活用により、若手の人材流入を促進する。 ・税制優遇措置の導入：スタートアップを対象とした税制優遇を実施する。 ・空き店舗や空き家の活用：市内の空き店舗や空き家を活用し、賃料補助や改修費用を支援することで新規事業を始めやすい環境を整備する(例：サーラテ臼杵の一空間をテストマーケティング用として低価格で提供)。 ・メンター制度の導入：地域の産業構図を知っている、または成功事例を知っているメンターによるアドバイスを制度化する。	本市では、創業を考えている方、創業して間もない方を対象とした財務会計や販路開拓、人材育成等、経営の基礎知識を学ぶための「創業支援セミナー」を開催しています。また、創業された方に対し、創業後の人材育成や資金調達など経営面での様々な課題について、外部の専門家を派遣し個別相談を行う「フォローアッププログラム」を実施しています。さらに、「創業支援補助金」や創業支援振興資金融資に要する「信用保証料全額補給」等により創業資金についても支援を行っておりますので、これらの取り組みについて引き続き周知してまいります。ご提案いただいた具体案につきましては、市の最上位計画である「総合計画」の内容を踏まえ、個別事業を検討する中で、参考とさせていただきます。
37	P68 (18)商工業の経営基盤強化	◇取組方針と主な取組 ①雇用の確保、創業支援の充実 5番目 「オープン型事業承継プラットフォームを活用して、事業承継に対する支援に取り組みます。」とあるが、これは地元事業者からの利用希望の声があがった取組か。事業承継に関する取組を強化したいのであれば、まずは地元事業者としっかりと話し合い、事業承継ができない理由や事業承継をしたいのかどうか、どのような形で事業承継を望むのか、声を聞く必要があると思う。オープン型事業承継プラットフォームに頼るのは簡単だが、その前にすべきことが沢山あると思う。	事業承継は地域経済の持続的発展において重要な課題であり、本市でも積極的に取り組んでいるところです。現在、事業承継・引継ぎ支援センターなどを通じたマッチング支援を行っていますが、これに加えて事業承継の可能性を広げる一つの手段として「オープン型事業承継プラットフォーム」を導入しています。事業承継・引継ぎ支援センターなどで行われるマッチングは、個別の事業者ニーズに応じたきめ細かな支援が可能である一方、オープン型プラットフォームは、より広範囲での後継者候補とのマッチングが期待できます。ご指摘のとおり、地元事業者の声を直接聞くことは非常に重要です。事業承継の課題は事業者ごとに異なり、後継者不在、事業の将来性への不安、相続対策など様々であるため、商工団体と連携し、事業者との対話の機会を設け、個々の状況やニーズを把握することに努めています。引き続き、事業承継に係る具体的な取組を進めるうえで、商工団体と連携を図り地元事業者の声を伺いながら効果的な手法を検討してまいります。
38	P68 (18)商工業の経営基盤強化	「企業誘致」は喫緊の課題。働く場所がなければ人口増加は望めない。	人口減少対策及び雇用や働く場に対する支援は喫緊の課題であり、様々な角度から検討を重ねているところです。いただいたご意見につきましては、市の最上位計画である「総合計画」の内容を踏まえた、個別事業を検討する中で、参考にさせていただきます。
39	P69 (19)観光資源の魅力向上と持続可能な観光の実現	◇現状と課題 3番目 「令和滞在時間の」とあるが、これは誤字か。	いただいたご意見のとおり、誤植のため「令和滞在時間」を「滞在時間」へ修正いたします。
40	P70 (19)観光資源の魅力向上と持続可能な観光の実現	次世代に選ばれる、魅力ある臼杵へ ― 若者と共につくる“イケてるまち”の実現に向け、臼杵の未来を担う若者たちとともに、“住みたい、誇れる、かっこいい臼杵”を育てていけば自然と魅力あるまちづくりになると思う。そのために、下記6つの取組を検討いただきたい。 (1)外部の意見や若者の視点を積極的に取り入れながら、チームでまちづくりに取り組むため、臼杵市全体を俯瞰できる「トータルプロデューサー」を置き、そのもとに専門分野ごとのチームを編成する取組 (2)市が建物の改修支援や出店支援を行い、スタートアップ補助を組み合わせて再活用することで、街に再び活気を取り戻す取組 (3)地元の中高生と一緒に「臼杵の地方創生」について考え、経営者候補の育成や事業プランの作成を課外活動としてサポートする仕組みづくり (4)資金がなくてもお店を始めたい人には、事業設計書の提出を条件に、返済型のスタートアップ支援を行う取組 (5)学校の授業だけではなく、ファシリテーターを活用した創造的なプロジェクトを通じたまちへの誇りや愛着を育む取組 (6)臼杵市民が臼杵の食を知り、自慢できるよう、ふくだけでなく、もっと気軽に臼杵の食の魅力を味わえる飲食店やイベントを増やす取組	ご指摘のとおり、臼杵の未来を担う若い世代が「臼杵で暮らしたい」「子育てをしたい」、臼杵で育つこともたちが「このまちで成長したい」と思える魅力あるまちづくりを進めることは、非常に重要な課題であると認識しております。そのため、本計画においては、特に若者の声や視点を取り入れ、策定を進めてきました。引き続き、臼杵の次世代を担う若者へ向け、本計画に基づいたまちづくりを進めてまいります。なお、ご提案いただいた取組については、今後の取組を進める上で参考とさせていただきます。
41	P70 (19)観光資源の魅力向上と持続可能な観光の実現	下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】受入体制・環境整備戦略の一部として、訪日観光のための多言語対応の強化 訪日観光客への対応力を高めるため、多言語対応の強化を中心に受入体制を整備する。これにより、地域の観光資源の魅力を上向きに、持続可能な観光を実現する。 【具体案】 ・多言語化の徹底：臼杵市の案内板、ウェブサイト、観光地パンフレット、メニューを多言語化し、QRコードで読み込めるようにする(飲食店のWiFi環境の改善)。 ・観光サポートの充実：AI通訳アプリやガイドを活用し、観光客向けのサポートを提供する。 ・外国語ガイドの育成：フリーランサー、パートなど多様な働き方を可能とする外国語ガイド育成体制を構築する。 ・外国人の雇用拡大：外国人を積極的に雇用し、多様性を活かした観光サービスを提供する。	本市では、2019(令和元)年のラグビーワールドカップ2019を契機に、訪日観光客へ向けた多言語対応を強化しました。今後も、外国人観光客の増加やユネスコ創造都市(食文化分野)への加盟による国境を越えた交流が図られることが予想される中、多言語対応のさらなる強化を中心とした外国人観光客等の受入体制の整備は必要であると認識しています。ご提案いただいた具体案につきましては、現在では、通訳アプリ「ポケット」や多言語パンフレット(5カ国語)を活用しておりますが、今後、誰もが安全・安心・快適に旅を楽しむことができるよう、個別事業を検討する中で参考とさせていただきます。

番号	項目	意見の概要	臼杵市の考え方
42	P70 (19)観光資源の魅力向上と持続可能な観光の実現	◇取組方針と主な取組 ②情報発信・誘客促進戦略 情報発信の内容は書かれているが、情報発信するためには情報収集能力と情報分析力、情報整理の能力など、情報を扱うための技術向上が必要と考える。今の臼杵は情報が分散し、住んでいても情報を探すのが難しく感じる人が多い。観光に関しても必要な情報に簡潔にアクセスできる整備が必要ではないか。	ご指摘の内容につきましては、◇取組方針と主な取組②情報発信・誘客促進戦略の「SNSやモバイルデバイスのアプリ等の活用など、観光DXの推進により観光情報発信力及び利便性を強化します。」に含んだ形で記載しております。引き続き、職員の情報リテラシーの向上に努め、時代に即した媒体等を活用し、より効果的な情報発信を行ってまいります。
43	P70 (19)観光資源の魅力向上と持続可能な観光の実現	「体験メニュー」の開発は、どれくらい進んでいるか。単独での観光資源は豊富であるが、そのつながりが商品として開発されていない。「和を求める外国人」、「仏の癒しを求める他県の観光客」を臼杵に訪問させる魅力を発信していただきたい。臼杵市観光協会の「うすき祈りの回廊」は秀逸。	現在、観光資源の魅力向上と持続可能な観光の実現に向けて、臼杵市観光協会等と連携を図りながら、「うすき祈りの回廊」や「USUKI VENUE」など様々なコンテンツの開発・磨き上げに取り組んでいます。今後、本計画に基づき「臼杵らしい文化・自然・歴史・食コンテンツと紐づけた体験メニューの開発に取り組み、観光地としての知名度向上や地域経済の活性化、臼杵の魅力発信に努めてまいります。
44	P73-74 (20)臼杵大好き”臼杵っこ”をめざした教育の充実	臼杵市は歴史的に国際的な重要性を持つ場所(リーフデ号の漂着地)であり、観光産業の重要性が増す中で、国際的な人材の育成・獲得が必要と考える。そこで、臼杵市がTOEIC高得点者に報奨金を付与する制度の導入を検討いただきたい。他の自治体に先駆けてこの制度を導入することで、特色ある教育政策となり子育て世帯の移住を促進できる可能性があることや、外国語に抵抗が無い人材をまことに増やすことは将来の治安の安定にも繋がると考える。さらに、学校教育に限らず、英語を使ったリモートワーク(例:オンライン日本語講師)をする人材の移住促進にもつながる可能性がある。結果として、臼杵市を訪れる外国人観光客への対応・案内ができる市民が増えるという波及効果も期待できる。	リーフデ号の到着地という歴史的背景を持つ本市にとって、国際的な人材の育成は重要な課題の一つです。また、今後、市内の企業で働く外国人労働者の増加や外国人観光客の誘客など国境を越えた移動や交流がより一層活発になることが想定されます。ご提案いただきましたTOEIC高得点者への報奨金制度は、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。
45	P73 (20)臼杵大好き”臼杵っこ”をめざした教育の充実	◇現状と課題 2番目 『各種学力調査の中には、全国平均を下回っている教科もあるため、全教科で全国平均を上回るように強化する必要があります。【学力向上】』について、全国的にレベルが低ければ意味がないため、全国平均よりも上や下といった相対的な評価は必要ではなく、子ども達全員が「学習の楽しさ」と「勉強する意味」を理解し、自ら積極的に学んでいける環境を整えることが必要だと考える。 また、生徒によって、学習速度・理解度の早い(高い)子、遅い(低い)子がいるのは確かで、真ん中に合わせた平均的な学習をするだけでなく、理解度の高い子には自ら先に進んで勉強でき、優秀な子ども達が臼杵から多く輩出される環境を、また遅い(遅れている)子にはしっかり理解できるようにフォローを行い、誰一人取り遅れることがない環境づくりが必要だと思う。その結果として、臼杵市がどこよりも成績が優秀な自治体になればと思う。	本市では、現在、デジタルドリルを活用することで児童生徒は自分の理解度に応じて学習を進めることや、市独自に教員を加配することで、児童生徒の理解度に応じた習熟度別指導等のきめ細かな指導ができる体制を整備し、こどもたちそれぞれの学習状況に応じた支援を行っています。引き続き、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するための教育環境を整えるよう努めてまいります。
46	P73 (20)臼杵大好き”臼杵っこ”をめざした教育の充実	◇現状と課題 4番目 『「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するための教育環境を整えることが喫緊の課題」に対して「学校の適正配置」「複式学級の解消」「老朽化した校舎」「通学手段の検討」など、「先生の数」や「それにかかる経費」といった、大人(学校)都合のハード的な問題から打ち出している施策が多いと感じる。例えば土日に仕事を自営業者の家庭を考えると、土日が学校が休みだと親と子が一緒にいる時間が少なくなる。子ども(家庭)を中心に考えるのであれば、例えば土日に開校する学校を作る(家庭環境に応じて週末に学校に通う/平日に休むことができる)など、家族との時間をもつために、平日に休暇を取った場合には、休んだ分の授業をICTを活用して補修できる(授業内容を録画して視聴できるとか、そもそもカリキュラム毎に需要内容を収録しておけば、勉強したい箇所を視聴できる等)などがあると、家族で過ごす時間が増え、家庭でも一緒に勉強したり、家庭での学びの場が増えたりするのではと思う。 また、保護者にも家庭教育の重要性を理解してもらう必要があると考える。教育は学校だけで行う(学校だけに任せる)ものではなく、家庭でも、親子一緒に学ぶことが大切だと思う。	現在、児童生徒数の減少により、特に「協働的な学び」の日常的な実践が困難な学級があります。本項目については、「協働的な学び」を授業において実施していくためには、ある程度の人数の確保が必要であり、そのための教育環境整備に務めるという内容であり、それに伴う◇取組方針と主な取組については、②基礎学力の定着と向上に記載しています。また、家庭教育につきましては、施策(1)安心して産み育てるための子育て環境の充実及び施策(21)社会教育の充実それぞれ内容を包括して記載しています。
47	P73-74 (20)臼杵大好き”臼杵っこ”をめざした教育の充実	下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】次世代に必要な新たなスキルの育成 従来の学校教育の延長線を越えたカリキュラムを導入する必要がある。知識のインプットだけでなく、創造力、問題解決力、実行力、協働力、発信力を育成するための教育を提供し、AIが利用される時代に対応する人材を育てる。 【具体案】 ・問題解決能力を育成するプロジェクト型学習;実社会の課題を模索し解決策を提案するプロジェクト型授業を実施する。例えば、こども議会を設立し、市の未来について考え、提案し、行動する場を提供する。 ・批判的思考と倫理教育;AIの生成した情報の信頼性を判断するスキルを育てる教育や、AIの倫理的な使用について議論し、責任感を養う教育を導入する。 ・デジタルリテラシー;AIを活用した情報収集や分析のスキルを学び、効率的な問題解決を支援する。 ・情操教育と精神健康教育;生きる目的、命の大切さ、他者への思いやり、共感力の心を育む。 ・コラボレーションとコミュニケーション能力;世界中の学生と交流できる場を提供し、多様性への理解を深める機会を増やす。	こどもたちが必要なスキルを学び身に付けていくことは、次世代を生きるこどもたちにとって必要不可欠であると認識しています。引き続き、ご提案いただいた取組を参考に、次世代を生きるこどもたちに必要なスキルを学び身に付けることのできる機会を提供していきたいと考えています。

番号	項目	意見の概要	臼杵市の考え方
48	P77-78 (21)社会教育の充実	生涯教育の視点から「亀城学園・亀城大学」や「老人クラブ」の存在も記述していただきたい。	生涯学習の理念に基づき、亀城学園、白寿大学などの高齢者が学び交流する場の充実を図っていくことは大切であると考えています。いただいたご意見につきましては、◇取組方針と主な取組①公民館活動の充実の中の「利用者のニーズ等に沿った講座を開設し、市民が主体的に学べる環境の充実を図るとともに、公民館だよりやSNS等を活用して、周知・啓発を行います。」に内容を包括して記載しています。引き続き、市民が主体的に学べる環境の充実を図ってまいります。
49	P78 (21)社会教育の充実	下記の取組方針に基づき、具体的取組を提案する。 【取組方針】公民館活動の充実 健康や趣味活動を中心とした内容の他に、新しい取組やトレンドを取り入れ、住民にとってより魅力あるものにする。また、市内だけでなく、市外からも専門家やスピーカーを招き、参加費を取ることで高品質なプログラムを提供する。 【具体例】 ・テクノロジーとデジタル活用:スマートフォンの使い方やビデオ編集、アプリの活用などデジタルスキル講座(特に中高年向け)。 ・臼杵食文化の勉強:臼杵の食文化の歴史やUNESCO 食文化創造都市に指定された背景、取組などを体系的に学べるプログラム ・多文化交流:外国語カフェや、異文化体験ワークショップ ・アートと創作活動:子供と親子向けアートクラブやDIY講座、自然体験活動。 ・世代間交流イベント:若者と高齢者が一緒に参加できるプロジェクトや、昔の遊びと現代のゲームの融合イベント。 ・脳健康講座:ゲームやパズルを使った脳トレーニング講座で認知症予防を促進。 ・人間関係やコミュニケーション力向上:自己表現力、話し方や聞き方のスキル向上、夫婦関係、親子関係、職場での人間関係などに特化した講座	本市では、公民館活動の一環として発酵料理教室や大人の初心者ピアノ・リトミック教室、パソコン教室などを開催しています。ご提案いただきました公民館活動の充実につきましては、◇取組方針と主な取組①公民館活動の充実の1番目「利用者のニーズ等に沿った講座を開設し、市民が主体的に学べる環境の充実を図るとともに、公民館だよりやSNS等を活用して、周知・啓発を行います。」に内容を包括しており、引き続き、魅力ある公民館活動に努めてまいります。そのほか、ご提案いただいた具体策につきましては、魅力ある公民館事業を展開する上で、参考とさせていただきます。
50	P79-80 (22)臼杵の歴史・文化を未来に届ける「郷育」の充実	臼杵市歴史資料館の企画は良いが、ハード面で魅力が足りないと感じる。プロジェクションマッピングによる映像表現や、モニュメント、体験ツールなど他市・他県には魅力ある施設がたくさんある。子ども同士や家族で訪問できる場所であってほしい。臼杵図書館も同様。	臼杵市歴史資料館や臼杵市立図書館につきましては、施設の状況を鑑み、こども同士や家族で訪問できる魅力ある施設となるよう、市民のニーズを踏まえ、取組を検討してまいります。
51	P80 (22)臼杵の歴史・文化を未来に届ける「郷育」の充実	文化・芸術の創造力を高めるような空間や、知的好奇心を刺激するような空間が臼杵市にはない。美術館・コンサートホールなどの建設は長期的視点からはメリットがある可能性があるのでご検討いただきたい。	現在、新たな文化・芸術施設の設置予定はありませんが、既存の市民会館等の更新を行いつつ、魅力ある文化施設として、利用者や文化団体の意見を参考に、市民ニーズに沿った文化・芸術活動を推進してまいります。
52	P94 (27)行財政基盤の強化	◇取組方針と主な取組 ②組織改革と人材確保・育成の推進 人材確保・育成のためには、職員の育成だけではなく、市職員1人1人に寄り添った、働きやすい・働きたいと思える職場環境作りに対する取組が必要と考える。	ご指摘のとおり、人材確保・育成のためには、職員の育成だけではなく、働きやすい・働きたいと思える職場環境作りは必要であると考えております。 ◇取組方針と主な取組②組織改革と人材確保・育成の推進の「働き方改革を推進し、すべての職員がいそいそと活躍できる職場環境の整備に取り組みます。」を追記いたします。